Harmony ハーモニー

大原記念財団
開放型病院登録医会報

Vol.199　2023. 1

新年ご挨拶

一般財団法人大原記念財団　理事長兼統括院長　　佐藤 勝彦

新年おめでとうございます。旧年中は、診療面でも経営面でもコロナ感染症流行拡大の影響により苦難の連続でしたが、なんとか乗り越えてこられましたのも地域の皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

新病院が開院して早くも５回目の新春を迎えることになりました。大原綜合病院は新病院になって医療機能が充実して一部の高度医療を含む急性期に特化した病院となり、大原医療センターは回復期へと転換し、訪問看護ステーションと精神科の清水病院を加えた法人内医療連携ケアシステムが整備されました。今後はデジタル社会を見据え、病院医療を最適なものにするために IT 技術を積極的に導入し、患者サービス向上や医療連携において医療ＤＸを推進していきたいと考えています。

コロナ感染症の収束は未だ見えてきませんが、これからも感染対策に取り組みながら「市民の命と健康を守る」という使命を果たすべく、病院職員一丸となって次の夢の実現にむけて取り組んでまいります。

一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院 院長　小山 善久

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

地域の先生方や関連医療機関の皆様そして地域の住民の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2019 年の年末から流行した新型コロナウイルス感染症は昨年もオミクロン株により第６波、第７波そして、第８波と蔓延し、そのたびに多くの陽性患者が入院を余儀なくされており年始になっても収束が見えない状況です。さらにインフルエンザの流行も危惧され、一般救急医療体制の逼迫を招いており、福島市内でも厳しい状況にあります。当院でも同様でありますが地域の皆様の健康を守るため職員も精一杯尽力しております。

今年も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、地域住民の皆様のニーズに応えられるようにさらに診療に励んでまいります。同時に登録医の先生方や医療機関の皆様と連携し十分かつ迅速な対応を行い、新たな情報提供をさらに進めてまいります。

昨年は開院 130 周年の年であり、９月には病院機能評価の審査を受審し、年頭からその準備に追われた年にもなりました。今年は昨年以上に多職種の職員が協力し合いながら更なるレベルアップを図ってまいります。

４年目を迎えた新型コロナウイルス感染症の対応は徐々に変わって、一般市民の行動制限は緩やかになりつつありますが、我々医療従事者は姿勢を変えず引き続き感染拡大防止に取り組んでまいる所存です。皆様の健康をお祈り致しますとともに今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院　副院長 地域医療生活連携室管理者 齋藤　修一

平素より当院地域医療生活連携室に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。新病院となり５年目を迎えました当院においては、地域医療支援病院として地域の医療機関や介護施設と連携し、急性期医療を提供することによる社会貢献を目指してまいりました。

新型コロナウイルス感染症拡大により社会情勢が一変し、さらに未だその終息の見通しが立たない状況ですが、当院もスタッフ一丸となって日々立ち向かっております。そんな中、近隣のクリニックや病院、介護施設などから多くのご紹介を頂き、重ねて御礼申し上げます。当連携室はご紹介くださる皆様のための窓口であり、皆さまのご意見、ご要望には、引き続き迅速にお応えしてまいる所存です。地域の皆様が安心して医療を受けられるよう職員一同取り組んでまいりますので、どうぞ本年も当連携室へのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後に、皆さまのますますのご健勝を心より祈念いたしております。

一般財団法人大原記念財団　看護本部　総看護部長　清野 伊奈美

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはご健勝にて新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見えず、第７波・第８波と押し寄せる中、行政・医療・福祉の各団体の皆様との連携で、医療と生活を支えあってきた年であったと思います。

大原記念財団としても、「地域包括ケアシステム」において医療の中核的役割を果たすために、救急医療体制の充実と共に、医療機関との病病・病診連携をはじめ介護施設や福祉関係の方々との連携を密にして、取り組んでまいりました。大原医療センターも回復期リハビリ病院として５年目となります。

チーム医療の充実を図り、高齢化社会で求められる役割が十分に担えるよう、組織横断的な連携・協働を行い、地域を「面」として健康を支えることができるように、急性期機能と回復期機能、精神科リエゾンアプローチと在宅医療へと取り組んでおります。

看護の「場」は多岐にわたっており、看護職はそれぞれの「場」で看護ケアをつなぎながら地域の人々の健康と生活を支えております。大原記念財団看護部も、全世代の健康を支えられるよう、「入院」「外来」「在宅」と看護機能の連携を強化し、多職種と連携していきたいと思います。

地域の中核的医療機関として「医療」と「生活」の双方の視点を持って、使命が果たせるよう貢献していきたいと思います。本年もどうぞご支援ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

当院の最新治療
シリーズ

早期胃癌、食道癌、大腸癌に対する
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

大原綜合病院
消化器内科 部長 渡辺　晃

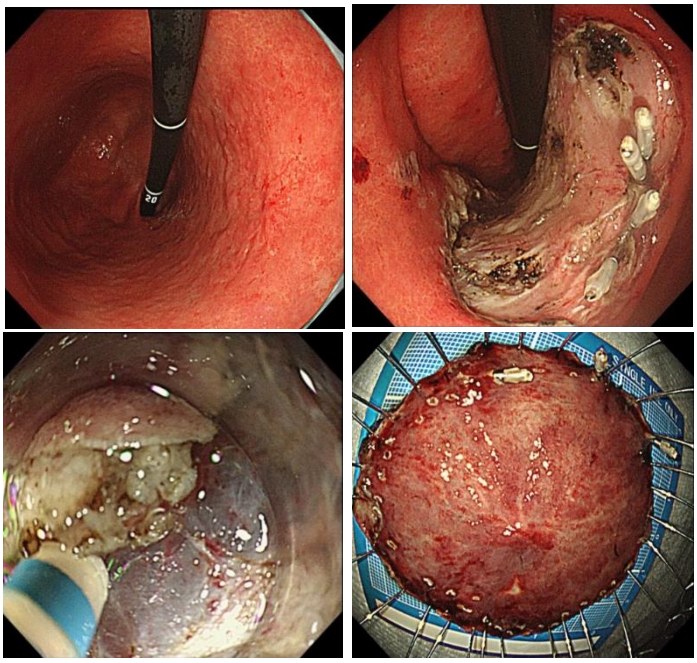
当科で力を入れております内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）に関しましてご報告させていただきます。

ESD は早期癌を内科医が内視鏡的に根治させることができる治療です。最新の治療というよりは，当科が伝統的に力をいれてきた治療になります。2021 年度の治療件数は胃 ESD142 件，食道 ESD27 件，大腸 ESD47 件とコロナ禍に関わらず増加傾向でした。これも症例をご紹介してくださった登録医の先生方のおかげであります。この場を借りて御礼申し上げます。

最新の治療ではありませんが，ESD も日々進化しています。

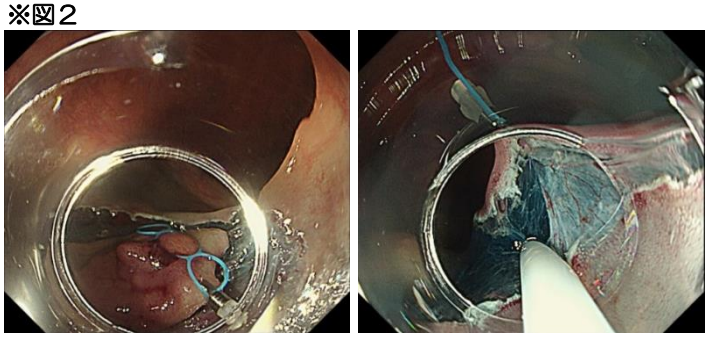
ESD は難易度が高く,さらに病変の部位や大きさ、瘢痕の有無などで大きく左右されます。当科ではこれまでの治療経験から得た治療戦略を大切にし，難しい病変の切除も行ってきましたが(図 1)，最近では病変の粘膜面と対側の腸管をクリップで接続し引っ張りあげることで剥離を容易にする輪ゴムのようなデバイスが市販化され，より早く安全に剥離が可能となっています（図 2)。また ESD の適応となる病変は粘膜内癌のような原則リンパ節転移のリスクのない癌となりますが,最近は eCURA システムというデータによる，ESD での切除病変の病理因子に応じて将来のリンパ節転移再発のリスクが何%あるのかが計算できるようになりました。これにより粘膜下層浸潤癌などリンパ節転移が危惧される従来の外科手術適応の病変においても，外科手術への耐術能が懸念される高齢者や，外科手術を希望しない患者に対してまず ESD を施行し，リンパ節転移リスクが低率の場合は経過観察するという方針も一つの治療のオプションとなっております（図 1)。（もちろん当院外科とも協議し、また患者と家族に十分な IC を施行した上で方針を決めております。）

※図１



【胃体部小弯を占める広範囲かつ潰瘍瘢痕を合併した症例でしたが高齢者のため ESD を施行し、安全に病変を一括切除できました。】

※図２



【病変を対側の腸管にクリップで接続し引っ張り上げるデバイスでより安全に剥離できるようになりました】

最後になりますが，早期癌といえども癌が発見された患者は不安をかかえ来院なさることが多いと思います。ご紹介いただいた患者様に対して我々はまず早期癌であり完治が可能な可能性が高いことや今後の見通しを初診時から説明させていただき，安心していただくことを意識しています。今後もぜひ当科にご紹介いただければ幸いです。

第１５回『地域と病院をつなげる会』を開催しました

（写真）総合診療科　主任部長
菅藤　賢治　医師

令和４年 11 月 29 日（火）18:00 よりオンライン（zoom）にて「第 15 回地域と病院をつなげる会」を開催しました。今回はコロナ禍による感染対策として、初の完全オンラインでの開催となりましたが、職員と地域の関係機関の皆様、総勢約 130 名にご参加いただきました。今回は当院総合診療科 主任部長 菅藤賢治医師より「ACP を地域で考えていく～もっと前から話しておけばよかった～」と題し、講演をいただき、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）（※1）の成り立ちや、ACP は何をしたらよいのかなどを解説してもらいました。

この会を通して、今後もリビング・ウィル（※2）視点を高く持つとともに、更なる地域連携に努めてまいります。

（※1）ACP（アドバンス・ケア・プランニング）Advance Care Planning
年齢や病期を問わず、成人患者が自身の価値観・生活の目標・今後の治療に対する意向を理解・共有することを支援するプロセス

（※2）リビング・ウィル　Living Will
本人が決められる時＝元気な時に自分自身の医療に関する希望や生き方を記すこと

【キビタン健康ネットの窓口が終了します！】

大原綜合病院２階、外来待合スペースに設置しておりました、
キビタン健康ネット専用ブースが１２月末を持ちまして
終了となります。
尚、今後のキビタン健康ネットの問い合わせや、
対応窓口は総合患者支援センターで行います。

大原記念財団の理念

人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一歩先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、
地域から信頼される病院を目指します。

制　作　大原綜合病院 総合患者支援センター
発行者　一般財団法人大原記念財団
理事長　佐藤　勝彦
電話　024(526)0371 ダイヤルイン
FAX　024(526)0935
代表　024(526)0300
住所　福島市上町６番１号

大原記念財団職員行動規範 10 ヵ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しきことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。